

浦上川水系河川整備基本方針

平成 13 年 1 月

長 崎 県

浦上川水系河川整備基本方針

目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	1
(1) 浦上川流域の概要 -----	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 -----	2
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 -----	3
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並び に河川環境の整備と保全に関する事項 -----	3
3) 河川の維持管理に関する事項 -----	3
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 -----	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 -	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 -----	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に 関する事項 -----	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に 関する事項 -----	5

< 参考図 >

浦上川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 浦上川流域の概要

浦上川は、標高366mの前岳にその源を発し、国道長崎バイパス沿いに西流して河口より5.7km地点で三川川と、4.8km地点で大井手川と合流し、その後城山川と合流し浦上地区の市街地を貫流して長崎港に注ぐ流路延長13.3km、流域面積38.6km²の2級河川である。その流域は、ほぼ長崎市の中心に位置し、流域人口は15万人でそのほとんどが河川沿いの平坦地に集中し長崎市における社会、経済の基盤をなしている。

流域の気候は、対馬暖流の影響を受けて温暖であり、年平均気温は16～18程度である。年平均降水量は概ね2,000mm程度であるが、台風常襲地帯であることや梅雨による影響により6月～9月の降水量が多くなっている。

流域の地形は、山岳地が多く、平坦地が少ない。中心市街地は、浦上川の沖積作用によって形成されたわずかな低地及び埋立地に集中している。

流域の土地利用状況は、浦上川上流域の急傾斜地での植林地の面積が最も広く、緩傾斜の丘陵地では畑地や果樹園として利用されている。中流域から河口にかけては、商業地域、工業地域となっており、その周辺には住宅が集中し、学校、病院、郵便局等の公共施設が立地している。また、河川と並行して国道206号・国道34号バイパス、JR長崎本線・長崎電気軌道などがあり、市町村を結ぶ幹線として重要な役割を果たしている。

浦上川の治水・利水・自然環境および河川利用状況の概要は以下に示すとおりである。

治水の概要

浦上川は、街の中心部を流れる河川で、古くから治水対策が行われてきたが、流域内は急峻な地形で山が川沿いまで迫っている事もあり、過去幾度となく洪水被害に見舞われてきた。なかでも、長崎市を中心に死者行方不明者299名、被害総額3,150億円という甚大な被害をもたらした昭和57年7月23日の「長崎大水害」では、浦上川流域においてもいたる所で護岸が決壊し、浸水面積196ha、床上浸水2,241戸、床下浸水1,393戸の被害を受けた。

この災害を契機に昭和57年より河道拡幅、河床掘削等を実施しているが、今後とも治水対策を継続していく必要がある。

なお、近年において高潮による被害は発生していない。

利水の概要

浦上川の流れる長崎市では、浦上川の河川水を水道用水及び農業用水として利用している。長崎市では、昭和40年代に、たびたび渇水被害に見舞われたが、近年は長崎市の不足分を長崎市外のお他ダムより補給することにより、給水制限などの甚大な渇水被害は生じていないものの、浦上水源池下流においては、渇水時に河川水が枯渇する状況が発生している。

自然環境および河川利用状況

浦上川の上流域は、急峻な地形で照葉樹の二次林がその多くを占めている。河道は、コンクリートによる護岸がなされ、かつ河床も露岩している区域がほとんどであるため植生は多くないが、堆砂した区域にはススキ、メヒシバ等が見られる。魚類としてはヨシノボリ、カワムツ、タカハヤ等が、鳥類としてはカルガモ、ヤマセミ等の他、浦上水源池においてオシドリが確認されている。

中流から下流域にかけては高度に市街化されており、河道はコンクリートによる護岸がなされていることや、感潮区間であるため、植生はほとんどみられないが、道路に面した河岸沿いには桜や柳が植栽されている。魚類としてはギンブナ、コイ、ボラ等が、鳥類としては、コサギ等が確認されている。

河川空間は、中上流では魚釣り、水遊びといった憩いの場として、下流では市民の散歩・ジョギング等憩いの場として、また世界平和の祈りと原爆で亡くなられた人々の哀悼をこめた浦上川万灯流しの場として利用されている。

水質に関しては、大橋堰より上流はB類型、下流はE類型の水質類型指定となっている。大橋堰地点における過去5年間のBOD75%値の平均は12.5mg/ℓとなっており、環境基準値(10mg/ℓ以内)を上回っている。しかしながら下水道の整備もあって、近年は環境基準値を満足しており、水質は改善されつつある。また、上流の川平取水堰、浦上水源池では、環境基準値(3mg/ℓ以下)を満足している。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

長崎県では長期総合計画において「地域を支え合う安全・安心な社会づくり」、「自然環境と人々が共生する社会づくり」を掲げ、安全で快適な生活環境づくりを目指している。

浦上川の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会、経済の発展に係わる諸計画(長崎市総合計画等)との調整を図りながら、

水源から河口まで一貫した計画のもとに河川の総合的な保全と利用を行っていくものとする。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川に係る取り組みの促進・支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行っていくものとする。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

浦上川は、戦後最大洪水である昭和57年7月23日の「長崎大水害」の際の降雨により発生する規模の洪水を安全に流下させることができる整備を目指すものとする。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、警戒避難体制及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施する。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域と一体となった取り組みを推進する。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

浦上川では、地域住民、長崎市や関連する他行政機関との緊密な連携のもとに、現在の河川環境に配慮しつつ、合理的な水利用の促進等適正な水利用を図ることにより、流水の正常な機能に必要な流量の維持に努める。

また、河川環境の整備と保全に関しては、現在の動植物の生息・生育環境の保全に努めるとともに、浦上川が長崎市の市街地を流れる都市河川であり貴重なうるおいの空間となっていることより、地域住民の憩いの場所としての利用を踏まえた河川空間の整備を図るものとする。

3) 河川の維持管理に関する事項

浦上川では昭和57年7月23日の「長崎大水害」により長崎市街地が甚大な被害を受けていることもあり、地域住民の水害に対する防災意識は高いものがある。また、近年では環境に対する関心も高まってきているため、関係自治体や地域住民と連携し、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切な維持管理を行う。

また、浦上川は、浦上川万灯流しや散歩・ジョギング等に利用され貴重なオープンスペースとなっていることから、現在の利用がさらに促進されるよう管理を行う。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水は、昭和57年7月23日の「長崎大水害」等について検討した結果、基準地点稲佐橋においてそのピーク流量を1,090 m³/sとする。このうち洪水調節施設により140 m³/sを調節することとし、河道への配分流量を基準地点稲佐橋において950 m³/sとする。

基本高水のピーク流量等一覧表

(単位：m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
浦上川	稲佐橋	1,090	140	950

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

浦上川における計画高水流量は、基準地点稲佐橋において950 m³/sとする。



浦上川計画流量配分図

- (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項
 本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川 幅 (m)	摘 要
浦上川	稲佐橋	0.69	+ 1.73	75	基準地点

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

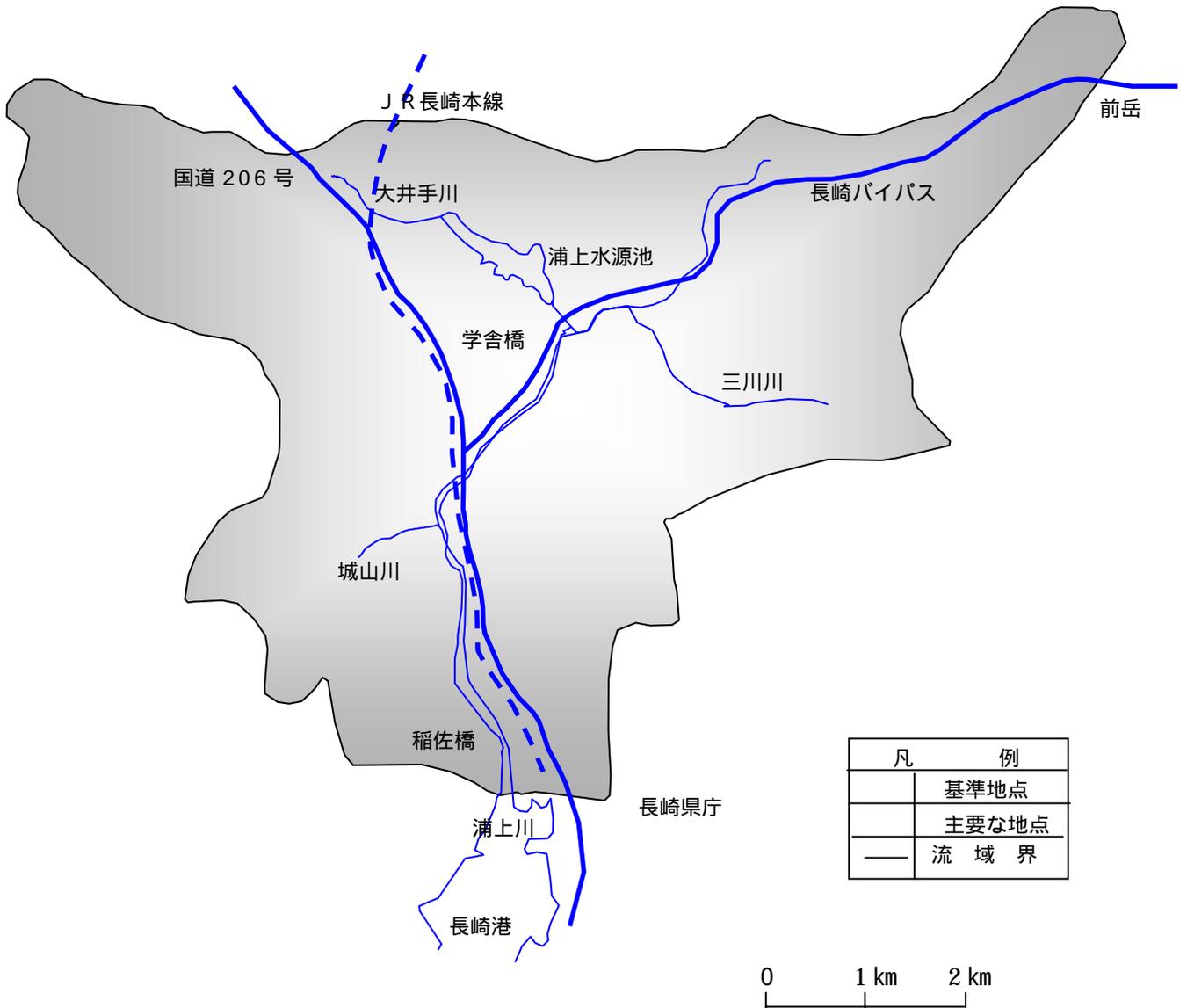
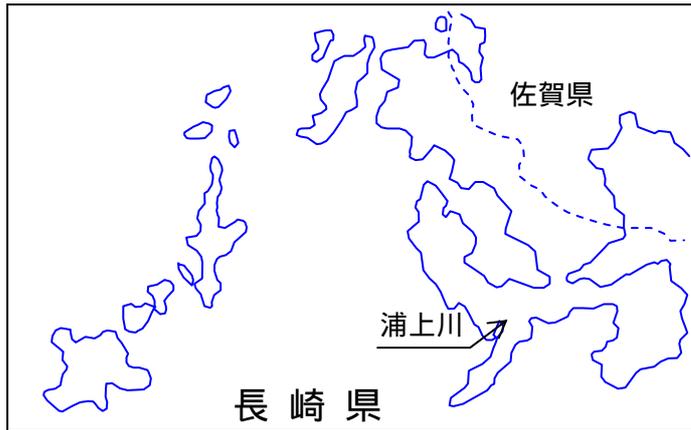
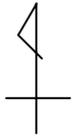
- (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

浦上川の既得水利としては、水道用水として $0.29 \text{ m}^3/\text{s}$ ($25,000 \text{ m}^3/\text{日}$) の許可水利と、農業用水として約 1.0 ha に対する慣行水利がある。

なお、学舎橋地点における過去 40 年間 (昭和 34 年 ~ 平成 10 年) の平均濁水流量は約 $0.041 \text{ m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量は約 $0.058 \text{ m}^3/\text{s}$ である。

学舎橋地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、動植物の保護等を考慮して約 $0.058 \text{ m}^3/\text{s}$ とする。

なお、学舎橋地点上下流の水利使用の変化に伴い、当該水量は増減するものである。



浦上川水系流域概要図